



文部科学大臣杯

第28回全国高等学校対抗選手権

12月24~26日
津グランドボウル



▲ともに初優勝の中部商業高校(左)と綾瀬西高校

男子は3年生コンビの 中部商業高が有終のV 女子は1年生ペアの 綾瀬西高が初出場初優勝

第28回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会は、男子47校、女子20校が参加して12月24日から3日間、三重・津グランドボウルで行われ、男子は前年4位の沖縄県立中部商業高校が初優勝、女子は1年生のペアで出場の神奈川県立綾瀬西高校が初出場初優勝をさらった。(主催：(公財)全日本ボウリング協会)

女子優勝・綾瀬西高校



▲崎山選手「決勝の1、2回戦はよかったけど、最後は不申妻ないスコアだった。濱崎さんと二人で優勝を目指して入学したので、本当によかった」



▲濱崎選手「緊張で序盤は体がガチガチだった。9、10フレは持ってこないと言まのはわかってた。迷いを吹っ切ってしっかりと投げ切れた」

の濱崎選手が9フレから10フレ2投目までターキー、最後を9本で347:345と2ピン逆転して優勝を飾った。

女子準優勝・羽衣学園高校



▲緒方美空選手「自分たちのミスで流れを手放してしまった。この大会に出たくて妹に入学を勧めたので残念」



▲緒方彩音選手「目標にしていた大会で勝たなかった。心臓の音が聞こえるくらいすごく緊張した」

男子優勝・中部商業高校



▲光崎選手「自分は初出場で、決勝の1回戦は緊張したけど、だんだん慣れてきて優勝決定戦は落ち着いて投げられた。優勝は素直にうれしい」



▲宣保選手「コロナの影響で本格的に練習を始めて3カ月くらい、間に合っただけだった。光崎君とは3年間一緒に頑張ってきたので優勝はうれしい」

男女それぞれ予選9G(チーム18G)の上位8校が決勝に進出、決勝は1Gマッチのトーナメント戦で争われた。

男子

男子は、予選3回戦で福満亮選手が805、小山愁斗選手が718を打った長崎・西海学園高校が、トータル2129の1位で通過すると、決勝でも順当に1、2回戦を突破して優勝決定戦に駒を進めた。反対のゾーンからは、予選3位の沖縄県立中部商業高校(光崎脩・宣保和志)が、快調なボウリングで勝ち上がってきた。一方前年優勝で2位通過の群馬・桐丘学園桐生第一高校は、1回戦で姿を消した。

優勝決定戦は、前半で約2マークのリードを奪った中部商業高校が、そのまま417:386とリードを守って初優勝を飾った。オープンフレームは中部商業高校がスプリットによる1個だったのに対し、西海学園高校はスペアミスが4個あり、その差がスコアに表れた。

女子

女子は、ともに1年生ながら、中学時代から実績豊富な崎山穂花選手と濱崎りあ選手が組む神奈川県立綾瀬西高校が、予選を断トツの1位で通過すると、決勝でも危なげなく優勝決

定戦に勝ち上がった。反対のゾーンからは、予選3位通過の緒方美空(3年)、彩音(1年)の姉妹ペアの大阪・羽衣学園高校が、1回戦を344:332、2回戦を362:359と接戦を制して優勝決定戦に進んだ。

優勝決定戦は、前半リードを奪った羽衣学園高校だが、7、8フレを二人ともオープンにして勝負の行方が分からなくなった。優勝へチャンスが巡ってきた綾瀬西高校は、アンカー

男子準優勝・西海学園高校

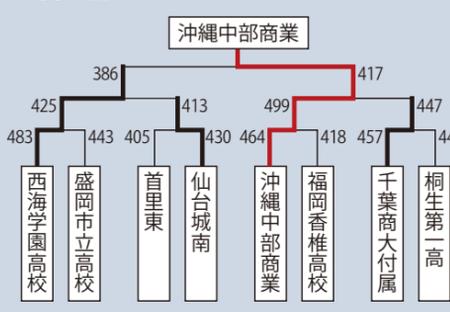


▲小山選手「7フレ@ピンのカバーについてファールをしてしまった。普段でもあり得ないミスで悔やまれる」



▲福満選手「守るのではなく攻めのボウリングができた。あつたけど、思い切ったボウリングができた」

●男子決勝トーナメント



●女子決勝トーナメント

